

「木曽川水系流域治水シンポジウム」を開催しました

○木曽川水系流域における様々な主体による「流域治水」に係る取組事例を共有し、具体的な対応を推進することを目的に「木曽川水系流域治水シンポジウム」を開催。

○日時：令和4年3月27日(日) 14:00~16:30
○会場：ぎふ清流文化プラザ長良川ホール
NTNシティホール(桑名市民会館)
○参加：岐阜会場 約120人 桑名会場 約70人

【開会挨拶】

中部地方整備局長 堀田 治



(発言要旨)

流域治水は今までの治水とは違う。流域全体のあらゆる関係者で水災害に対応する「全員が主体の治水」である。

岐阜市長 柴橋 正直



(発言要旨)

水害が身近なものになっており、常に水害と隣り合わせに生きていることを理解する必要がある。

桑名市長 伊藤 徳宇



(発言要旨)

下流域では水害のみならず南海トラフ巨大地震によるリスクもある。様々な関係者と心をひとつに、あらゆる取り組みをしていくことが必要。

【開催趣旨説明】

木曽川上流河川事務所長
高橋 裕輔



(発言要旨)

水害リスクの増大に備えるため、流域全体のあらゆる関係者が水害リスク情報を共有すること、事前の防災対策に取り組むことが大切。

【基調講演】

「気候変動とそれによる水害リスクの増大」
名古屋大学名誉教授 辻本 哲郎 様



(発言要旨)

近年では、2015年の鬼怒川水害、2018年の西日本豪雨、2019年の東日本台風など、毎年のように大きな水災害が発生している。木曽川水系をみても、2018年には長良川において、安八破堤と同じような何波にもわたる水位上昇、2021年には木曽川で戦後第2位となる水位を観測した。

全国的に水災害の激甚化・頻発化が目立っており、それらの災害を「克服」することは極めて重要な課題である。

災害リスクは、「外力の増加」、「曝露の拡大」、「脆弱性の増大」に依存する。「外力の増加」への対応として、河川整備は河川整備基本方針で定められた目標水準までの対策であり、かつ整備には時間がかかる。整備を効率よく進めるとともに、河川の施設能力が限界を超えた場合の対応を流域全体で進める必要がある。また、流域のあらゆる関係者が具体的な行動を起こせるよう、浸水想定やハザードマップや危機管理計画を充実させることも重要。

また、「外力の増加」は避けられないが、「曝露の拡大」に対しては、新しい土地利用の転換などにより一定程度水害リスクが回避できると考える。

さらに、住民の適切な避難に繋げるための「水防災意識社会の再構築」への努力により、水害への脆弱性を緩和することも重要。

水災害の激甚化・頻発化に対し、「外力の増加」、「曝露の拡大」、「脆弱性の増大」の各観点から、あらゆる対応を実施する必要がある。あらゆる主体によるこうした取組み、それがいま求められている「流域治水」である。

「木曽川水系流域治水シンポジウム」を開催しました

○木曽川水系流域における様々な主体による「流域治水」に係る取組事例を共有し、具体的な対応を推進することを目的に「木曽川水系流域治水シンポジウム」を開催。

○日時：令和4年3月27日(日) 14:00~16:30
○会場：ぎふ清流文化プラザ長良川ホール
NTNシティホール(桑名市民会館)
○参加：岐阜会場 約120人 桑名会場 約70人

【事例紹介】



(木曽川上流河川事務所)

河川管理者から様々な頻度の水害リスク情報を提供していく。水害リスクがある場所、頻度等に理解を深めること、日頃から防災・減災を意識して事前に備えること、あらゆる関係者が協働して対策を取ることが大切だ。

(岐阜市)

過去30年に絞っても広範囲に渡って浸水の経験がある。ハード対策に加えて「岐阜市総合防災安心読本」を全戸配布するなどのソフト対策も推進している。

(JA岐阜厚生連)

病院の建設地の想定浸水深は、約5mだが地盤高を最大6m嵩上げすることにより、患者を守ると共に医療を継続して提供できる水害により強い施設とした。

(各務原市)

浸水想定区域図(L1)において、1m以上浸水するエリアを除外し、あらかじめ便利で安全なエリアに住居を誘導できるよう住居誘導区域を設定し、災害リスクを念頭においた立地適正化計画を策定した。

(岐阜小学校)

長良川の風水害に備える学習として、水防団の働きから共助を学び、タイムラインの作成で自助の意識を高める取組を推進している。

(NPO法人こどもトリニティネット)

ぎふママ減災スタディの取組として、災害時には子育て当事者が確実に自らの命や財産を守る行動が取れるよう、事前準備の推進と啓発を実施している。

(桑名市)

市の総合計画のビジョンである「命を守ることが最優先」や地域防災計画にかかげている「災害に強いまちづくり」を推進するため、「消防本部の高台移転」や「小学校・中学校の高台移転」などの取組を推進している。

(木曽川下流河川事務所)

木曽三川下流部では、関係機関と連携し、発生しうる高潮や洪水氾濫による大規模水害からの犠牲者ゼロの実現に向けた、広域避難に対する地域住民への意識啓発と理解促進、また、体制の構築などの取組を推進している。

(三井アウトレットパークジャズドリーム長島)

木曽川の下流部に位置するジャズドリーム長島では、大規模な地震時における一時避難場所までの避難に向けたルート整備やBCP(事業継続計画)に向けた非常用発電機の整備検討などを推進している。

(まとめ(辻本名誉教授))

それぞれの立場での水災害対応の取組、あるいはその努力をお互い知り合うことができ、流域全体としての防災力がさらに強くなるだろうことを実感できるシンポジウムとなった。日常が様々な組織や地域と関わっていることを実感し、様々な場面で力強い取組が実施されていることを良く知っていただき、こうした方々と自分自身、地域を自ら守る隊列に加わることを今日から始めることが重要である。